

■研究概要

【試験方法】

通院治療中の高齢慢性便秘患者(65~80 歳、30 名)を募集し、同意を得られた方を対象に、まず、2 週間前観察を行いました(摂取前期間)。次に、ラブレ菌を含む乳酸菌飲料130mLを1 日1 本4 週間毎日摂取していただきました(摂取期間)。その後、2 週間後観察を行いました(摂取後期間)。摂取前期間、摂取期間及び摂取後期間中毎日アンケートを記入していただき、下剤使用回数と下剤使用量を調査しました。試験を完了した 30 名の高齢慢性便秘患者について、アンケートの結果から下剤使用回数、下剤使用総量を解析しました。

【結果】

摂取前期間と比べて摂取期間及び摂取後期間中の下剤使用回数は2.1 から1.6 及び1.6 回/日に(図1)、下剤使用総量は2.9 から2.3 及び2.3 錠/日になり(図2)、有意に低い値を示しました。

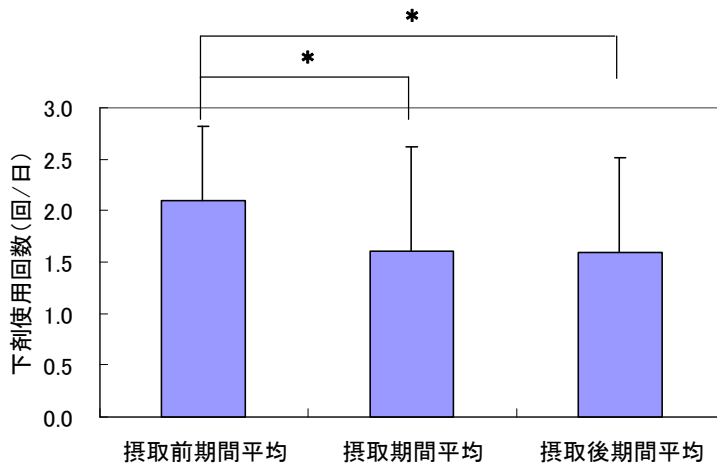


図1; 下剤使用回数の変化

摂取前期間と比較して統計学的に有意差あり(* : $p < 0.05$, $n=30$)

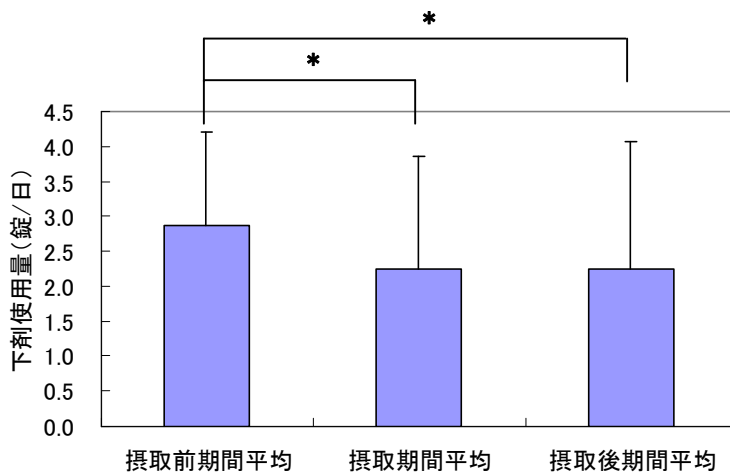


図2; 下剤使用総量の変化

摂取前期間と比較して統計学的に有意差あり(* : $p < 0.05$, $n=30$)

【結論】

以上のことより、ラブレ菌を含む乳酸菌飲料の摂取は高齢慢性便秘患者の下剤使用回数や下剤使用量の低減に効果があり、摂取後も2 週間は持続することが示唆されました。高齢慢性便秘患者の薬剤に頼った排便が自然な排便に改善される一助になる可能性が考えられました。今後もラブレ菌の機能性を科学的に検証し、その価値を明らかにしていく予定です。

■用語説明

《ラブレ菌》

学名 *Lactobacillus brevis* KB290 → 通称、Labre (ラブレ菌)

京都の漬物「すぐき」から(財)ルイ・パストゥール医学研究センター(京都)で分離され、その整腸作用や免疫賦活作用が研究されてきました。

《整腸作用》

排便状況(排便回数、便性状)の改善および排便状況改善のメカニズムである腸内菌叢バランスの改善作用を整腸作用といいます。

《便秘傾向》

便秘の定義は明確に定められておらず、研究者によって定義が異なりますが、一般的に排便の間隔が不規則な場合、毎日排便がある場合でも排便に苦痛を伴う場合を指します。便秘傾向とは、これらの症状を示しますが、加療には至っていない場合で、排便が2週間で4~10回の状態としました。

《高齢慢性便秘患者》

便秘の定義は明確に定められておらず、今回は通院治療を行っている方で65歳以上の人を高齢慢性便秘患者としました。

《下剤使用回数》

1日に慢性便秘患者の方が下剤(内服薬と座薬)を使用した回数を下剤使用回数としました。

《下剤使用量》

本研究の被験者である高齢慢性便秘患者の方に用いているマグミットとレシカルボン座薬の量を下剤使用量としました。

以上

【本件のお問い合わせ先】

カゴメ株式会社

ホームページアドレス/<http://www.kagome.co.jp/>

カゴメお客様相談センター

0120-401-831